令和８年９月定例記者会見要旨（令和８年９月２５日）

１.中心市街地活性化公民連携事業の事業費大幅増額について、整備内容の追加や変更、物価高騰に伴い、従来１４１億円近くとしていた全体事業費が３４億円余り増加し、１７５億円となりました。
非常にインパクトの大きい増加幅です。これほどの規模の事業費追加があり得ることは当初から織り込んでいたのでしょうか。それでしたら、これまで１４０億円前後の事業費を公表していた段階で、将来的にさらに増える見通しがあることをもっと強調するべきだったと思います。もしくは、これほどの増加を「想定外」とするなら、計画の見通しの甘さが浮上します。
この事業費の増加について、市長としての認識を伺います。
また、担当課は今後、これほどの大幅増額は見込んでいないとしていますが、市長の認識を改めてお示し下さい。

まず、ご質問のありました中心市街地活性化公民連携事業におきましては、坂出駅前のバスターミナルや道路、広場、図書館を核とした拠点施設、さらには、さぬき浜街道沿いの坂出緩衝緑地など、事業の対象が広範囲に及ぶものであります。

さらに、本事業は設計・建設・維持管理・運営を一体的に発注するＰＦＩ手法を用いており、事業期間は２０年間となりますことから、当初契約の約１４０億円には約７７億円の施設整備費に加えて、約５７億円の維持管理・運営費がございます。

７月には、昨今の著しい物価上昇を受けて、約１４０億円に対する物価変動額として約４億８千万円の増額があり、さらにこのたび、９月定例会にて本事業の増額について議会の承認をいただいたところでございます。

今回の変更では、駅周辺における駐車場不足の解消に寄与する立体駐車場や駅と駅前拠点施設を結ぶ歩行者動線上の屋根の整備や緩衝緑地における駐車場整備の追加など、当初契約同様、完成後の維持管理・運営費が含まれた契約になります。これらは、当初から見込んでいたものではなく、民間事業者からいただいた提案をベースに庁内外問わず意見やニーズをお聴きしていく中で、市民の皆さまをはじめとする利用者の方々の目線で判断したものでございます。

加えて、事業契約後の地質調査の結果による基礎工事の増加や法令変更、警察協議による仮設信号の設置なども考慮したものになります。

これらにつきましては、今年度の当初予算をお示しした３月定例会においても報告させていただいておりましたが、いずれの変更要素も必要なものと認識しており、施設の整備費においては約半分が国庫補助の対象となる予定であります。

また、今回のような内容の変更に伴う大幅な増額については、今後において予定しておりませんが、工事を進めていく中で、予見できない変更が生じる可能性はあると考えております。

いずれにしましても、本事業はＰＦＩ手法によるもので、設計や建設だけではなく、施設の維持管理運営も含めた２０年間の長期的な事業契約となっておりますことから、今後事

業が行われていく中で、物価変動等の影響を受けることは十分考えられるものであります。

２．９月は「駅前拠点施設・緩衝緑地の愛称」「緩衝緑地の出店事業者」「トイレカーのクラウドファンディング」の募集期限を迎えます。
以上３点はホームページでも主なお知らせに挙げていますが、応募状況は現状どうなっていますか。愛称や出店は３０日、ＣＦは２８日までが期限ですので、「最後の一押し」を呼びかけるコメントもお願いします。

まず、「駅前拠点施設と坂出緩衝緑地エリアの愛称募集」の応募状況につきましては、９月２５日時点で駅前拠点施設が３４６件、坂出緩衝緑地エリアが２４１件、合計５８７件の応募がございます。

つぎに、「坂出緩衝緑地の東街区における出店者募集」につきましては、様々な業種のかたから７件の応募がありました。

「トイレカーのクラウドファンディング」につきましては、９月２５日時点で、ふるさとチョイスのサイト経由が３５件、法人からの申し出が４件、窓口等での申し出が２４件の合計６３件、１６４万９千円のご寄付をいただいております。

トイレカーは、災害が発生した際には、避難所へ迅速に駆けつけ、衛生環境の悪化を防ぎ、避難所で安心して過ごすために、命と、そして人としての尊厳を守る重要なものでございます。

７月２８日に、発生した令和８年熊本地震では、今なお多くのかたが避難所での生活を余儀なくされており、本市では被災地の一刻も早い復興を願い、宇城(うき)市へ物資の提供や職員の災害派遣などを行ってまいりました。被災地では、全国から集まったトイレカーが活躍しており、避難所で生活される方々や現地で支援活動を行う方々を支えております。

現在、香川県が実施している災害派遣に加え、９月２８日からは、本市独自となる宇城(うき)市への災害派遣第２陣を予定しており、継続して被災地支援を行っております。

災害はいつ、どこで発生するか分かりません。トレイカーの整備に引き続き、ご協力をいただくとともに、ぜひ寄付を通じて、自身の災害に対する備えについて考える、キッカケとしていただければと考えております。

いずれの案件も、締め切りが近い状況になっております。坂出市が掲げております「市民との共創によるまちづくり」を実現してまいりたいと考えておりますので、少しでも多くの皆様からの思い、ご応募をお願いできればと考えております。